



30号 令和6年6月12日

＜学校教育目標＞

自ら伸びる ともに伸びる

校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



「夢」はいつもそばにいてくれる

昨日、教え子が校長室を訪ねてくれました。

阿賀小で5、6年生のときに担任したその教え子。37歳になっていました。関東に嫁いでいる彼女が、まとまった時間が取れたということで、私の顔を見に来てくれました。

昔話に花が咲きましたが、その中で、その教え子からこんな話が・・・。

「先生が私たちにしてくれた“夢”の話、覚えていますか？」

即座に頭の中の記憶を巻き戻してみましたが、残念ながら思い出せませんでした。

「ごめんなさい！私、どんな話をしましたかね？」

「先生がお話してくれたのは・・・、夢というのは、あきらめない限り、いつも自分のそばにいてくれる。逃げてどこかに行ってしまうようなことはない。だから、あせることもない。背伸びして無理をすることもない。あきらめない限り、大丈夫。そんなお話でした。私は、小学生のときに先生からしてもらったその言葉を、いつも心においてこれまで生きてきました。」

本当に、教師冥利に尽きる教え子の言葉でした。

帰り際に、色紙にしたためて彼女に贈った私の座右の銘は、「感謝」。

「この年になって行き着くところは、やっぱり“感謝”です。感謝の心がなければ、実は夢もそばにいてはくれないだろうし、何よりも、感謝の心がなければ、人は生きてはいけないから。」

「先生に会えてよかった！」

そう言いながら学校を後にする彼女の後ろ姿に、私は心の中で何度も何度も「がんばれ！」を言い続けました。

